

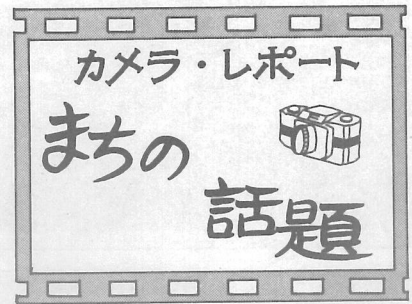
大きくなって帰って来いよ～



去年、サケが大量に「里帰り」した栗山川。3月10日、360人の小学生たちがサケの稚魚を放流しました。勢いよく泳ぎ去っていく102万尾の稚魚に、子供たちは「4年後にまた会おうね」と、大きな声援を送っていました。

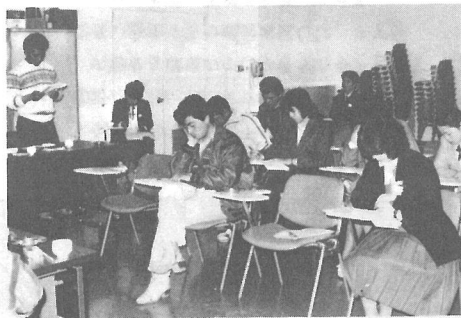


↑ 体長約7cmのサケの稚魚 ↓



議員さん、大勉強

2月28日、文化会館で議員研修会が開かれました。県の職員を講師に、地方自治についての講義を受けた18名の議員さん方は、メモをとりながら熱心に聴き入っていました。



青年団長に 川島 満君

(北清水西)

町青年団の総会が文化会館で開かれました。若いエネルギーは大きな力です。今年も、大いにその活動が期待されます。(3/11)

お手並 拝見

篆刻に励む

印鑑 づくり

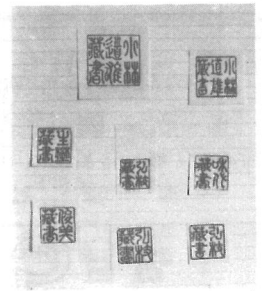
篆刻(印材)に字體などを彫り込むこと)という特殊な趣味から年輩の男性を想像しましたが、うら若きご婦人にビックリ。実川さんが篆刻を始めたのは高校生の時。書画に押す落款印を彫ったのがきっかけで、すっかりその魅力にとりつかれてしまい、独学で字體や篆刻の技術を学び、夜を徹して熱中したそうです。主婦業の現在は、時間的な制約があるもののひき続き勉強に励み、彫つ

た作品は落款印や蔵書印、実印や認印などと幅広く、数もすでに50本ほどになるとのこと。印鑑の命でもある字體や全体的なバランスを考えて、印材(主に石材を用いているとのこと)に裏文字書きし、全神経を集中させ彫り上げていく。ここが最も大事で難しく、また極度に疲れるところだそうです。しかし、思いどおりに仕上がった時は、なんともいいような快感がほとばしり、疲れをいやしてくれるといいます。



↑ 実川弘枝さん (坂田)

「独創的に作品を生み出せるところが最高の魅力。これからも時間を有意義に使い、味わいの深い趣味の一つとして続けていきたいですね」と、エネルギーッシュに語る表情には、充実感にあふれた喜びが満ち満ちていました。



↑ みごとな作品の一部 ↓